

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年 12月 1日

事業所名 児童デイサービス すだっち

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	0		・人数と児童の年齢層を考えると手狭に思える。落ち着いて宿題をしたり、静かに過ごせるスペースがあまりない。 ・1階だけでは手狭であり、2階へ上がると目が行き届かないこともあるため、必ず職員がつくようにしている。
	2	職員の配置数は適切である	6	0	0	・基準以上に配置している。 ・利用人数に合わせた配置をしている	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	0	6	・臺口はスロープがあり車椅子での利用が可能	・部分的に配慮はされているが、段差がある場所が多く、改善が必要である。 ・階段では職員が付き添いをする。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	0	・毎日終礼での振り返りと月1回の全体会議を実施。 ・朝礼や終礼では当日勤務の職員、月1回の全体会議では全員が参画している	・PDCAサイクルのCAから課題を検討し、次のPの改善につなげる事が課題である。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	0	・アンケート結果は全職員に周知している	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	0	5		・今後の課題である
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	0	どんな研修があるか職員全員が把握できるように公開され、職員自身も選択できるようにしている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	0	・それぞれ児童の担当の情報に基づき意見を出し合い、見発管がまとめる。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	0	3		・アセスメントツールの活用が課題である。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	0	・朝礼や終礼で話し合っている ・担当が案を出し、全体で話し合って決めている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	0	・毎回活動時の児童の様子、反応などを見ながら活動を考えている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	0	0	・予定表に細かく時間割を書き子ども達にわかりやすく、理解しやすくしている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	0	・支援計画を基に考えている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	0	・毎日、朝礼で確認している	・午後から勤務の職員への伝達もれを防ぐため、日報で確認したり、申し送りをする。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	0	・終礼で確認している。休みの職員にも確認できるように日誌に細かく記入している	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	0		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	0	0		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5	1	0			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0		・児発管や管理者が参画している。基本は児発管が行くが、時には一番関わっている指導員が行くこともある。	・連絡事項だけでなく、もう少し個別に担任と学校の様子など情報交換できるとよい
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0		・LINEで情報発信している	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	0	5		・対象児童がいない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	0	5		・保護者や相談支援員からの情報が共有している。他事業所とは必要であれば情報共有していきたい。 ・就学前の情報は保護者か相談支援員から情報共有している。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	0	4	・相談支援員を通じて間接的に行っている	・情報を共有していきたい
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	0	3		・10/12に周南子ども発達相談センターの黒葛原さんの研修を受けた。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	0	4	・児童クラブ等の交流はないがサンアビ祭りなどで地域の子どもと交流している。	・今後も交流を広げていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	0	4		・今後検討する
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	0	・連絡帳や送迎時に情報を共有している	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	0	4		・今後、ペアレントトレーニングの研修をしていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	0	0		・コロナにより機会が少なくなっているが今後は増やしていきたい ・参加者が少ないので日時の調整や内容についても検討する必要あり
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	0	・毎月すだっち通信で発信している。変更等があれば連絡帳への記入やLINEで発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	6	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	0	3	・自治会への参加	・すだっちでの活動、行事内容を発信(配布)するなどして興味を持ってもらう

7	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	0	0		職員間ではできているが保護者への周知をもう一度強めたい
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	0		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	0	・虐待を防止するため全体会議で計画的に研修を進めるための話し合いができています。	・研修の機会を増やしていく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	0	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	0	・医師からの指示ではなく保護者からの要望によって職員間で情報を共有し、対応に心掛けている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	0		